

国立がん研究センター中央病院形成外科で 再建外科のエキスパートを目指して！

診療科としての人材育成のポイント

当院形成外科では悪性腫瘍切除後に生じた組織欠損に対してさまざまな再建手術を行っています。頭頸部再建、乳房再建、四肢・体幹の再建、消化器癌切除後の再建などの分野を中心にマイクロサージャリーを用いた再建を中心に研修が可能です。いずれの領域においても各科が国内有数の症例数を誇っており、再建の症例数も豊富です。再建手術においては、手術計画から皮弁挙上、皮弁縫着、マイクロサージャリーと様々なステップがあります。指導するスタッフとそれぞれのステップを経験していくことで研修修了までに術前計画からマイクロサージャリーまでを一人でできるようになることを目標としています。

国立がん研究センター中央病院形成外科での研修の特徴

- 多種多様で豊富な再建手術
- 多くの臨床経験の中で様々な技術の習得が可能
- 選べる研修コース

多種多様で豊富な再建手術

2019年度診療実績

- ・遊離皮弁移植術 241 例
- ・頭頸部再建 111 例（うち遊離皮弁移植術 99 例）
- ・乳房再建 146 例（下腹部皮弁 81 例 広背筋皮弁 13 例 TE 14 例 インプラント 38 例）
- ・骨軟部腫瘍再建 87 例（うち遊離皮弁移植術 35 例）



研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
形成外科

教育担当：
赤澤 聡

メールアドレス：
saakazaw@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



多くの臨床経験の中でさまざまな技術の習得が可能

再建手術においては手術計画から皮弁挙上、皮弁縫着、マイクロサージャリーと様々なステップがあります。指導するスタッフとそれぞれのステップを経験していくことで研修修了までに、術前計画からマイクロサージャリーまでを一人行えるようになることを目標としています。

実際の経験症例数（がん専門修練医2年間）

皮弁挙上 前外側大腿皮弁、腹直筋皮弁、広背筋皮弁など多数

マイクロサージャリー件数 約30例（2年間）

選べる研修コース

各プログラムの目的と特徴（詳細はレジデントプログラムのページを参照ください。）

・がん専門修練医コース

対象者：5年以上の臨床経験があり、すでに形成外科基本手技、ある程度のマイクロサージャリー経験のある方
期間・研修方法：2年間。形成外科専属で再建外科の研修を行う。

・レジデント2年コース

対象者：すでに形成外科基本手技を習得されている方、マイクロサージャリー経験については問わない。
期間・研修方法：2年間。ローテーション方式。頭頸部腫瘍科、乳腺外科、整形外科などの外科ローテーションが可能。病院の規定に基づき CCM 研修があります。

・レジデント短期コース

対象者：がん専門修練医に準ずる
期間・研修方法：6か月～1年6か月。形成外科専属で再建外科の研修を行う。

いずれのコースでも希望があれば国立がん研究センター東病院との交流研修も可能です。



レジデントプログラム ■ 形成外科

§ 推奨するコース

●がん専門修練医コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す方 ※基本領域専門医:形成外科専門医 ・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する方 ・すでに形成外科基本手技、ある程度のマイクロサージャリー経験のある方
研修目的	再建・マイクロサージャリー分野指導医の取得をふくめ、再建外科およびマイクロサージャリー手術の各ステップを習得する。
研修内容	各種再建手術の助手、術者として研修を行う。手術においては各種皮弁挙上を習得し、マイクロサージャリー術者として20例の経験をめざす。
研修期間	2年間
研修の特色	年間200例を超えるマイクロサージャリー症例を通して再建外科に特化した研修を行える。研修終了時には、各施設で再建手術の術者となれるような研修が可能である。
その他 (症例数や手術件数など)	・豊富な症例を経験しながら、各領域の再建手術に関して術前から術後までマネジメントを行う。 ・皮弁挙上は前外側大腿皮弁、腹直筋皮弁、広背筋皮弁、深下腹壁動脈穿通枝皮弁など多数経験。顕微鏡下血管吻合は2年間で20例以上を目標とする。

§ 副次的なコース

●レジデント2年コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す方 ※基本領域専門医:形成外科専門医 ・すでに形成外科基本手技、ある程度のマイクロサージャリー経験のある方
研修目的	再建・マイクロサージャリー分野指導医を取得をふくめ、再建外科およびマイクロサージャリー手術の各ステップを習得する。
研修内容	各種再建手術の助手、術者として研修を行う。手術においては各種皮弁挙上を習得し、マイクロサージャリー術者として20例の経験をめざす。
研修期間	2年 ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	年間200例を超えるマイクロサージャリー症例を通して再建外科に特化した研修を行える。研修終了時には、各施設で再建手術の術者となれるような研修が可能である。
その他 (症例数や手術件数など)	・豊富な症例を経験しながら、各領域の再建手術に関して術前から術後までマネジメントを行う。 ・皮弁挙上は前外側大腿皮弁、腹直筋皮弁、広背筋皮弁、深下腹壁動脈穿通枝皮弁など多数経験。顕微鏡下血管吻合は2年間で20例以上を目標とする。

§ その他のコース

●専攻医コース(連携施設型)

対象者	以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・専門医制度において中央病院が連携施設として登録されている基幹施設で研修中の専攻医
研修目的	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする。
研修内容	国立がん研究センター中央病院に3か月単位、最長2年間在籍する。
研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です。

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：6か月～1年6か月。形成外科研修
※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う